

第四番札所 金出大日堂

篠栗歴史遍路編 [その8]

金出の古屋 修行大師世話人

藤三祠を南下 三浦キヨ

すると金出の 富永キヌ

公民館があり 高木ユキエ

ます。公民館 松田ノブヲ

の東にはわず 内堀キク

かばかりの境 淡島大明神

内に小さなお 篠原アサ

堂が建つてい 重松サダ

ます。これが 鎗 アイ

4番札所です。

お堂の右手に並ぶ石仏

を一つ一つじっくり見て

いくと、実に愛らしい表

情の一体を見つけること

ができました。

その台座には以下の銘

文があります。

白井チヨ

古川シゲ

山本トモ

この石像は、仏像では

なく、淡島(粟島)様の

神像であるようです。寄

進者11人の全員が女性で

すから、きつと婦人の守

り神ということで淡島神を奉納したのでしょう。

しかし、淡島神像の台座にもかかわらず、銘文冒頭に「修行大師」とあるのはなぜなのでしょう。

か。その謎は、再び境内の石仏を見ていくことで解きました。境内には修行大師の石像もあつたのです。

この像は境内の南端にあり、本堂に相對して建てられています。弘法大師が修行のために行脚し

ている姿を表現しており、右手には杖を、左手には鉢を持ち、荷物を背負つた旅姿になっています。

像の右手前には「修行大師寄附者」として50人ほどの名前を刻んだ石柱が立てられています。

その中で個人として最も高額の十円を寄付した人が、淡島神像の寄進者として筆頭に挙げられて

いた三浦キヨ・富永キヌ・高木ユキエだったの

師が修行のために

つまり、4番札所に修行大師像を建立するため

に世話人となった11人の女性たちは、多くの人々から寄付を集めて事業を成し遂げるとともに、自分たちのために淡島像をも建立したと推測できるのです。

淡島像には建立年名がありませんが、先の石柱に「昭和十五年四月吉日」とあり、両像とも1940年に建立されたのでしよう。

ときは紀元(皇紀)2600年。神仏像の建立も奉祝の一環だったのかもしれない。

日仏共同篠栗民俗調査団
慶應義塾大学非常勤講師
中山 和久

